

■寂庵 学僧，能書家。悉曇研究に生涯をかける一方，江戸時代の"三書僧"あるいは"四書僧"として有名になった。

じゃくごん

赤穂浪士討入1702 = 備中国足守木下藩で，家士の鉄砲組頭岩田武兵衛の子で川部御領水内村の医師岩田玄通の子に生まれる。母は足守藩士の林氏。

徳川綱吉没・1709 = 7歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1710 = 8歳： 吉備津の普賢院の高僧超染真浄律師に入門，
冥途の飛脚・1711 = 9歳：
乾山陶器店・1712 = 10歳： 出家受戒し，諦常寂庵と名乗る。

学徳高く梵語を理解する者のいないことを嘆いて梵語学を復興したことから"真言の巨匠"と仰がれる(真浄の師)浄庵の学風を受継ぐ環境で，学問一途に修行，
徳川吉宗將軍1716 = 14歳：
隅田川の桜・1717 = 15歳： 修行が一段落して，初めて上洛した際，常陸国鹿島神宮正等寺の僧と出会い，神宮に伝わる神代文字の存在を知り，密かに写し取って意味内容の教示を受けて感銘し，梵語研究の決意を新たにする。

洋書輸入解禁1720 = 18歳： *窪屋郡沖の円福寺の住職に推挙され，以後，法務の間に真言密教・悉曇文字等の勉学に専念，早くもこの年，悉曇研究の最初の著述を完成(後年刊行)。

・ ・ ・ ・ ・ 1727 = 25歳： 近隣の諸寺院に請われて，悉曇の講説や経論の講伝をし始める。

梅岩心学始・1729 = 27歳：

やがて，地方寺院で入手できる文献に限界を感じ，
享保大飢饉・1732 = 30歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1734 = 32歳： *弘法大師九百年忌の法要で高野山に全国から多数の僧が集まった際に，卒塔婆を書いて驚かすほどの能筆(のち，慈雲・良寛とともに江戸時代の"三書僧"，明月を加えて"四書僧"とあがめられる)。
昆陽蕃諸考・1735 = 33歳： 法務を弟子に任せて，高野山・京都の名僧・知識を訪ねる旅に出る。各地の寺の宝庫に眠る文献を引き出してもらっては書写して回るうち，
・ ・ ・ ・ ・ 1736 = 34歳： 大学者の名声高い京都五智山蓮華寺の曇寂恵旭和上に入門を許され，
・ ・ ・ ・ ・ 1738 = 36歳：
・ ・ ・ ・ ・ 1741 = 39歳： 真言宗法流のひとつ三寶院地藏院流の最高印璽を授かり，悉曇の奥義すべてを授けられ，
*名刹宝島寺の住職に迎えられる。

以後，定住して研究を進めるとともに，近畿から山陽・四国にかけての寺々に講説・講伝に出かけ，後継者の育成や衆生済度に努め，
徳川吉宗隠居1745 = 43歳：

義経千本桜・1747 = 45歳：

徳川吉宗没・1751 = 49歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1756 = 54歳：

大岡忠光没・1760 = 58歳：

錦絵始・ ・ ・ 1765 = 63歳：

意次側用人・1767 = 65歳： 宝島寺を高弟文敞に譲って，倉敷村の玉泉寺に隠退，
*さらに，学問に専念し，生涯に仏教や梵語に関わる約百種の著作をして，

御蔭参流行・1771 = 69歳： 没した。

「人づくり風土記(岡山)」，インターネット，